

ドイツ学術情報 (2014 年 1 月～3 月)

< 目 次 >

- 1 ピックアップニュース …p1
 - ① エラスムス+(エラスムス・プラス)が始まる
 - ② EUの研究・イノベーションプログラム「ホライズン 2020」が始まる
 - ③ 研究開発支出の目標を達成

- 2 その他のニュース …p2
 - ① 連邦統計局による財政報告 2013 年版
 - ② 研究者のための図書館専門情報サービス
 - ③ アレクサンダー・フォン・フンボルト財団創立 60 周年
 - ④ 国際的なジョイントディグリープログラムとダブルディグリープログラムに関する書籍を出版

1 ピックアップニュース

① エラスムス+(エラスムス・プラス)が始まる

欧州議会に続いて欧州連合理事会も、「エラスムス+」(エラスムス・プラス)計画を採択した。これにより、フォーマル教育、職業教育、および青少年・スポーツのための欧州プログラムが 2014 年 1 月 1 日から始まる。予算は今後 7 年間で 147 億ユーロである。

エラスムス+によって、外国で経験を積み国際的な知識を習得するための様々な機会がドイツ人学生に提供される。これまでと同様に、欧州 34 か国で留学またはインターンシップを体験することができ、なおかつ奨学金は以前より高額になる。また、新たな点として、学士・修士・博士課程にかかわらず、12 ヶ月間外国に滞在可能になる。本計画の後期には、全世界の国々で外国滞在(留学またはインターンシップ)を小規模に行うことも可能である。さらにエラスムス+では、欧州内の他の国の修士課程に留学するための低金利貸付も行う。

エラスムス+は、大学教員交流や大学職員の研修等、大学等高等教育機関にも様々な支援を行う。

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2013/25236.de.html>

② EUの研究・イノベーションプログラム「ホライズン 2020」が始まる

EU の新たなフレームワークプログラム「ホライズン 2020」がドイツで始まった。総額約 770 億ユーロの投資と新たな組織による世界最大のプログラムで、研究とイノベーションの推進を目指す。「ホライズン 2020」により、基礎研究から製品化に至るまで、研究とイノベーションの支援が可能となる。

以前のフレームワークプログラムには全面的に参加しなかった諸国に対しても、「ホライズン 2020」の新しい施策により強力な支援が可能となった。先行プログラムと比較して投資額が約 27 パーセント増加し、申請と手続きが簡素化された。

<http://www.horizont2020.de/>

<http://www.bmbf.de/de/959.php>

<http://www.bmbf.de/press/3567.php>

③ 研究開発支出の目標を達成

ドイツにおける 2012 年の研究開発への支出総額が、過去最高の 795 億ユーロに達した。対国内総生産(GDP)比でも、過去最高の 2.98%に相当する。これによりドイツ連邦政府は、2005 年から 2013 年の間に研究開発への支出総額を 60%増の約 144 億ユーロに引き上げるという目標を達成した。他のヨーロッパ諸国と比較しても、この比率は最も高いグループに属する。

<http://www.bmbf.de/press/3539.php>

2 その他のニュース

① 連邦統計局による財政報告 2013 年版

連邦統計局の財政報告によると、教育に対する連邦政府の 2013 年の投資額は対 2012 年比 8%、2005 年と比べると 90%増加した。教育に対する連邦と州、自治体の教育への総支出額は 1166 億ユーロに達した。2005 年と比較すると、約 300 億ユーロ増加したことになる。

大学に対する連邦政府の支出は 2013 年に 49 億ユーロに達する見込みであるが、2012 年と比較して 20%増加した。

連邦統計局の財政報告に関する情報は、www.destatis.de から入手できる。

<http://www.bmbf.de/press/3575.php>

② 研究者のための図書館専門情報サービス

ドイツ研究振興協会 (DFG)は人文・社会科学における図書館サービスを支援するため、新たに5つの図書館に対して3年間で680万ユーロの支援を開始した。このプログラムの特徴は、通常の図書館サービスとは異なり、ドイツにおける人文・社会科学の研究者コミュニティの要望に応じて、各専門分野の研究に役立つ文献や情報を迅速かつダイレクトに提供することである。また、電子化された情報へのアクセスも重視している。

今回、第1回目として採択された5つのプログラムとその実施機関は次のとおりである。

1.国際的・学際的な法学研究のための専門情報サービス

ベルリン州立図書館(プロイセン文化財団が運営)

2.犯罪学のための専門情報サービス

テュービンゲン大学図書館

3.芸術のための専門情報サービス

ハイデルベルク大学図書館およびザクセン州立・ドレスデン工科大学図書館

4.メディアコミュニケーション学のための専門情報サービス

ライプツィヒ大学図書館

5.音楽学のための専門情報サービス

バイエルン州立図書館

http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2013/pressemitteilung_nr_54/index.html

③ アレクサンダー・フォン・フンボルト財団創立 60 周年

アレクサンダー・フォン・フンボルト財団は、1953年から国際的な学術交流の振興を積極的に行ってきた。2013年12月10日、アドヴェント(キリスト降臨節)・コンサートに多数の関係者を招待し、創立60周年を祝った。

<http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2013-30.html>

④ 国際的なジョイントディグリープログラムとダブルディグリープログラムに関する書籍を出版

国際教育研究所(Institute of International Education, IIE)とドイツ学術交流会(DAAD)が共同で出版した“Global Perspectives on International Joint and Double Degree Programs”は、ジョイントディグリー・プログラムとダブルディグリー・プログラムに関する最近の動向を調査・分析した書籍で、主に次の内容を扱っている。

・アフリカ、アジア、ヨーロッパ、中東、南北アメリカの高等教育機関の概観

- ・学生の要望、卒業後の雇用可能性、質の保証
- ・共同学位プログラム(collaborative degree programs)の概念的枠組み
- ・地域別の視点による共同学位の調査研究
- ・共同学位プログラムに関する綿密なケーススタディ

これらの国際的な学位プログラムは、仕組みが複雑で高額な経費を要するため実施は難しいという見解があったが、本書の分析によれば、適切に実施するなら便益が費用を上回るといふ。また、大学は国際的な学位プログラムを通じて、教育の機会を拡大し、共同研究を強化し、国際化を進め、大学の国際的な名声を高めることができるという。

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2014/25470.de.html>

ぼんぼん時計第 43 号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Phone +49(0)228-375050 Fax +49(0)228-957777

www.jsps-bonn.de